

記録的な日照不足の7月、梅雨明けしないまま夏休みを迎えることになりましたが、前後の土日を含めると44日間の夏休みが明日から始まります。どんな夏になるか、作り上げていくのは自分自身です。皆さん一人ひとりの人生において価値ある夏にしてもらいたいと思います。

1・2年生は、勉強や部活動はもちろんですが、英語などの資格取得を目指したり、大学などが実施する公開講座や体験活動などに申し込んで参加したり、旅行や読書で見聞を広め、博物館や美術館で本物に触れるなど、様々な活動に主体的にチャレンジし、それを記録してもらいたいと思います。夏休みは自分の視野を広げる絶好の機会であり、その経験はきっと進路選択にも役立つはずです。

さて、3年生はいよいよ受験生としての夏を迎えます。『受験勉強 = つらいこと』と思われがちですが、むしろ『受験勉強 = 自分が人間として成長するチャンス』と考え、白帆祭の準備とも両立しながら、クラスの仲間と励まし合い、この夏を楽しんでください。

『計画を立て、実行する力』・・・『途中で振り返り、再検討する柔軟性』

『限られた時間を効率的に用いる』・・・『時間内に終わらせる』

『生活リズムを守り、自分の健康を管理する』・・・『適度に息抜きし、ストレスをためない』

『つらい時にもプラス思考』・・・そして『忍耐力』

この夏を乗り越えたなら、このような様々な面で成長することができるはずです。そしてその経験が、これからの人生のいろいろな局面で困難にぶつかった時、それを乗り越える力ともなるのです。妥協して、楽をしようとするれば、たいていそれに見合っただけの苦労をあとで刈り取る事になるでしょう。早々と自分を見限って楽な方を選んだりせず、高い目標を諦めないことが大切です。

①. 【 オープン・キャンパス 】



夏休み中、1・2年生は「総合的な学習」の課題として、大学のオープン・キャンパスに参加すると思います。1年生は、初めて体験する大学の雰囲気に圧倒されてしまうかもしれませんが、オープン・キャンパスで憧れの大学に出会い、それを目指して頑張ろう、と決意した先輩は少なくありません。2年生は、具体的に自分が希望する学校を絞り込んでいく、という視点で複数の学校を見学して下さい。3年生はほぼ、自分の受験校が決まりつつあると思いますが、受験勉強のモチベーション維持と気分転換を兼ねて、その学校に通う1年後の自分の姿を想像しながら、第一志望、そして複数の併願候補校にも必ず訪問してください。

ただし、オープン・キャンパスの姿が、必ずしもその学校の本当の姿ではありません。学生確保に躍起になっている一部の学校では、時に過剰なイベントやプレゼントで皆さんを誘い込もうとするかもしれません。そのような雰囲気に飲み込まれることなく、冷静な目で学校を見学してもらいたいと思います。

②. 【 保護者会 大学見学会から 7/3(水) 】

千葉西高校では、例年7月上旬に保護者会の文化委員会が主催して大学見学会を行っており、今年7月3日(水)に、74名の保護者が2台のバスに分乗し、立教大学・早稲田大学の2校を訪問しました。両大学とも学生ガイドによる充実した研修を行うことができました(アンケートの満足度は100%でした)。

《立教大学》〔過去3年間の千葉西高校の現役合格数は21名〕

東京6大学の一つであり、池袋と埼玉県新座にキャンパスを持つ立教大学は、明治7年に創立され、現在は学生総数約2万人の大規模校です。訪問した池袋キャンパスには、7学部があり、繁華な池袋駅より徒歩7分という距離にありながら、大学にはとても落ち着いた雰囲気が漂っています。

我々一行は6名の学生ガイドにキャンパスを案内されましたが、ツタに覆われた赤レンガの校舎群と最新の設備を誇る近代的な施設が調和よく混在しており、リベラルな立教の精神を象徴しているように感じられました。全国有数の蔵書数を誇る近代的な図書館、全学部共通の充実した少人数制の英語教育カリキュラム、在学学生は無料で診察を受けられる診療所など、案内の学生が自分の通う立教大学に誇りを持って紹介してくれた姿にたいへん好感が持てました。

《 早稲田大学 》 [過去3年間の千葉西高校の合格者数は9名(含浪人)]

1882年(明治15年)に大隈重信が創立した早稲田大学は、現在13の学部で4万人以上の学生が学んでいます(学生数は日本大学に次いで第2位)。大隈重信が明治を代表する政治家であったことから、政治経済学部を中心に政界・財界に多くの人材を輩出しています。また出版、新聞、マスコミ、法曹、文学、スポーツなど様々な分野で国内外を問わず多くの卒業生が活躍しています。

早稲田大学では、4名の学生によるキャンパスツアーで学内を案内していただきましたが、留学生の姿が非常に多く、国際色豊かな活気溢れる学生達の姿が印象的でした。

《 参加保護者の感想 》大学の校風の違いを見られ、個人で行くオープンキャンパスよりも詳しく説明していただき、普段の学生の雰囲気が分かりとても参考になりました。



③ 【 3年 夏季学習ガイダンス 6/26(水) 7限 】

6月26日(水)の7限、3年学年集会で駿台予備学校の桑隼人氏による「進路講演会」が実施され、夏休みを迎えるにあたっての心構えなどについて講演していただきました。

- (1) 昨年の入試動向・・・私大の出願数が増加：しかし早慶上 GMARCH では減少⇒ 実は入りやすかった
- (2) 模試の志望校からみる今年の動向・・・今年の3年生はすごく弱気
なぜなら：入試が変わる ⇒ 不安・慎重 ⇒ 志望校を下位へ変更
しかし：⇒ 上位大のライバル減少 ⇒ 強気でチャレンジ ⇒ 上位大の志望校合格を勝ち取る
- (3) 納得した受験・進学をする・・・入学したら期待した大学像ではなかった⇒ 毎年3万人が中退
受験する大学の中退・留年率を事前に調べておくべき(中退は推薦・AO入学者で多い)
- (4) センターと共通テストの「目的」に大きな変化はない ⇒ 浪人を恐れる必要はない・・・強気で
ただし入試は既に変わりつつある・・・記号問題は減り、書かせる問題、時事問題が増えている
3年生も共通テストの試行テストをやってみると良い
- (5) 現役生はC、D、E判定から多くの合格者が出る ⇒ 今の模試の判定にとらわれない
- (6) 苦手科目はつくらない・・・合計偏差値が同じでも1つでも弱点科目があると合格率は低くなる

④ 【 外部講師による進路指導 ① 7/16(火) 13:30～ 】

外部講師による進路指導①は、7月16日(火)の13時半から約1時間、駿台予備学校の増田悟先生を講師としてお招きし、視聴覚室において開催されました。夏休みの勉強の注意点の説明の後、「仮定法」の英文法講義が過去問演習も含めて行われ、参加者36名は熱心に受講していました。

- (1) 「受験勉強はいつから始めるか？」は愚問である ⇒ 毎日の学校の勉強こそが受験勉強である
- (2) 過去問はいつからやるか・・・夏休み中に『見ておく(敵を知っておく)』(どのような出題パターンか? 明治は? 青学は? など複数校を)・・・2学期からは時間を計って本格的に取り組む
- (3) 模試は月1回は受験しておく・・・模試を受ける理由は、自分の弱点確認 + 時間配分の練習
- (4) 単語は文章の中で覚え、使えるようにしておく
- (5) 読むスピードを上げる唯一の方法は、構文をしっかりと理解しながら一文一文を精読すること
⇒ 最初は時間がかかるが(3年生もまだ間に合う)、やがて一回で読んで理解できるようになる